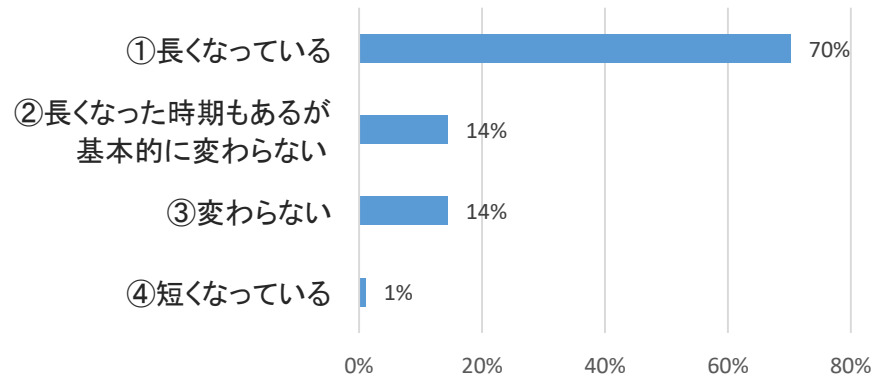


補足調査の結果概要

(1)「新たな日常における住まい」に関する意識調査	1
(2)「建築BIM」の導入状況について	6
(3)公営住宅ストックの状況について	11
(4)市町村における住宅施策の取組状況について	13

(1)「新たな日常における住まい」に関する意識調査

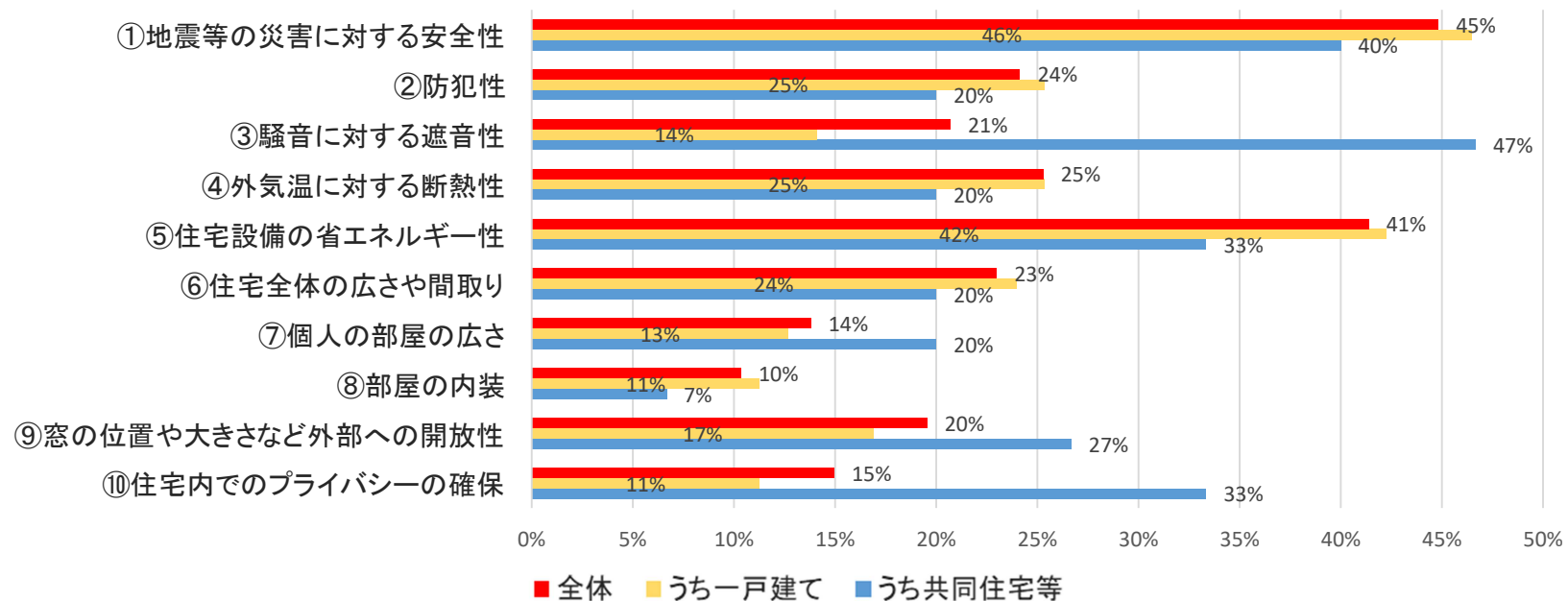
1. 新型コロナ以前と比べた「家に滞在する時間の変化」



【調査の概要】

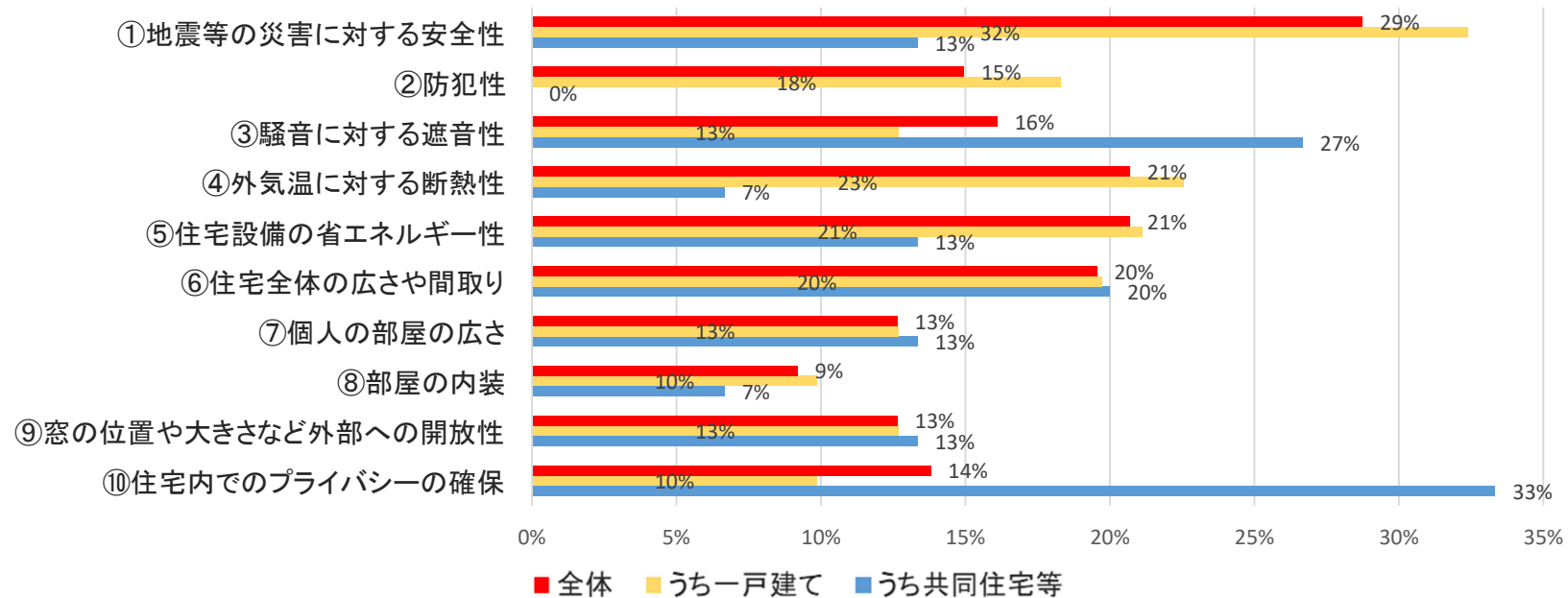
調査方法：県庁「e-モニターアンケート」により、
県内のe-モニター登録者に調査
回答数：189名
(一戸建て：持家 77.8% 借家 4.8%
共同住宅等：持家 2.1% 借家 14.3%)
調査期間：令和3年6月9日(水)～6月22日(火)

2. 住宅の各要素について、新型コロナ以前と比べて「より重要と思うようになったこと」(その他除く)

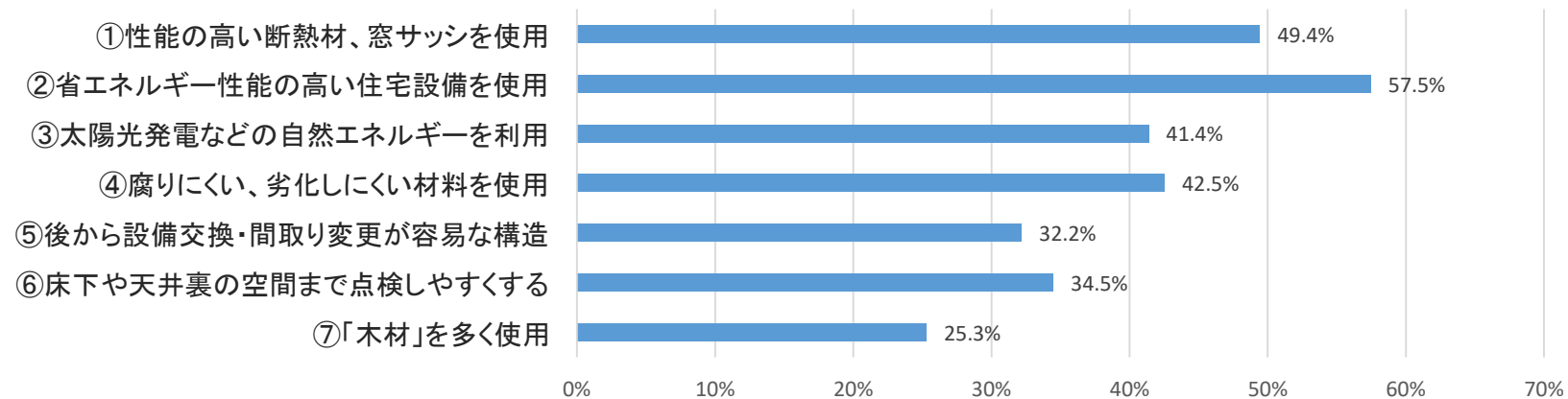


(1)「新たな日常における住まい」に関する意識調査

3. 住宅の各要素について、新型コロナ以前と比べて「より不満を感じるようになったこと」(その他除く)

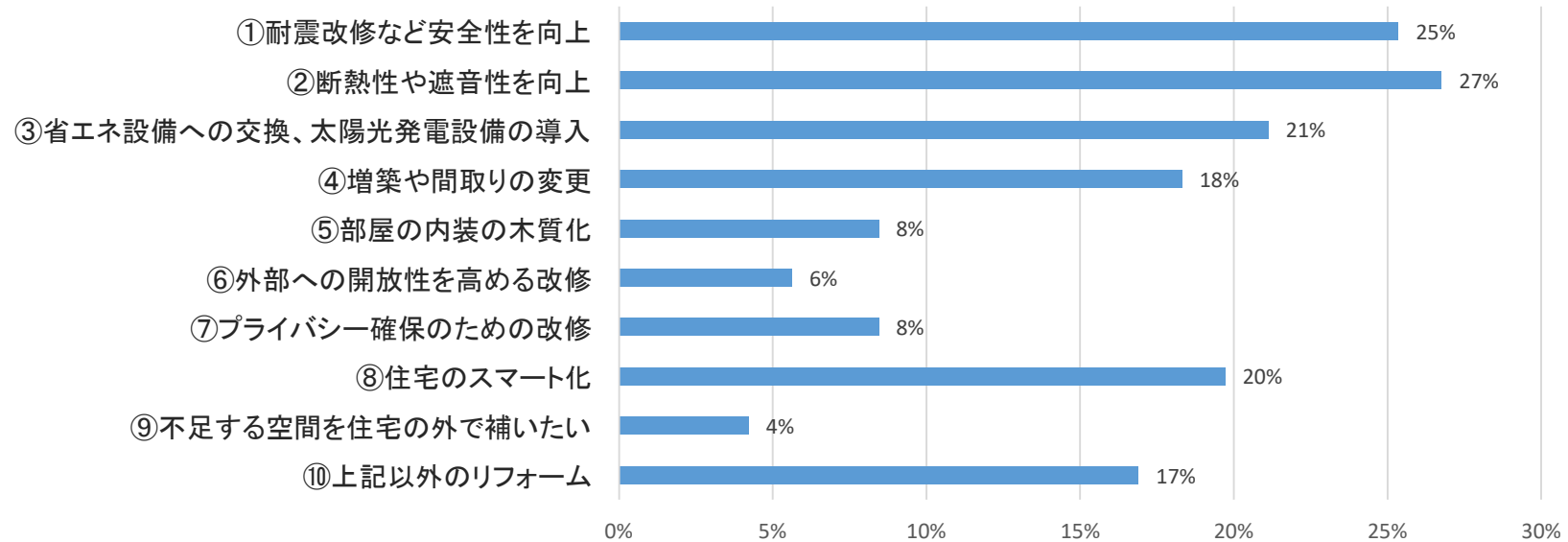


4. 脱炭素社会の実現に向けて「住宅にお金をかけてもよい」と思う取組(その他除く)

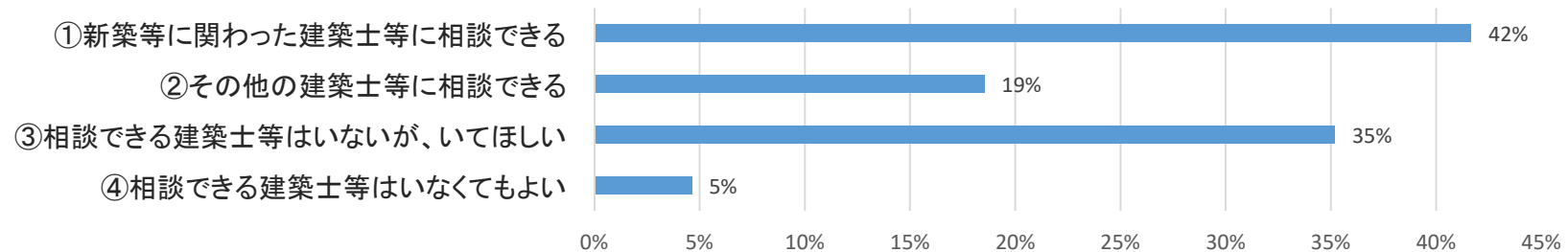


(1)「新たな日常における住まい」に関する意識調査

5. 今後5年くらいの間で「リフォームを考えている内容」(持家に住む者のみ)

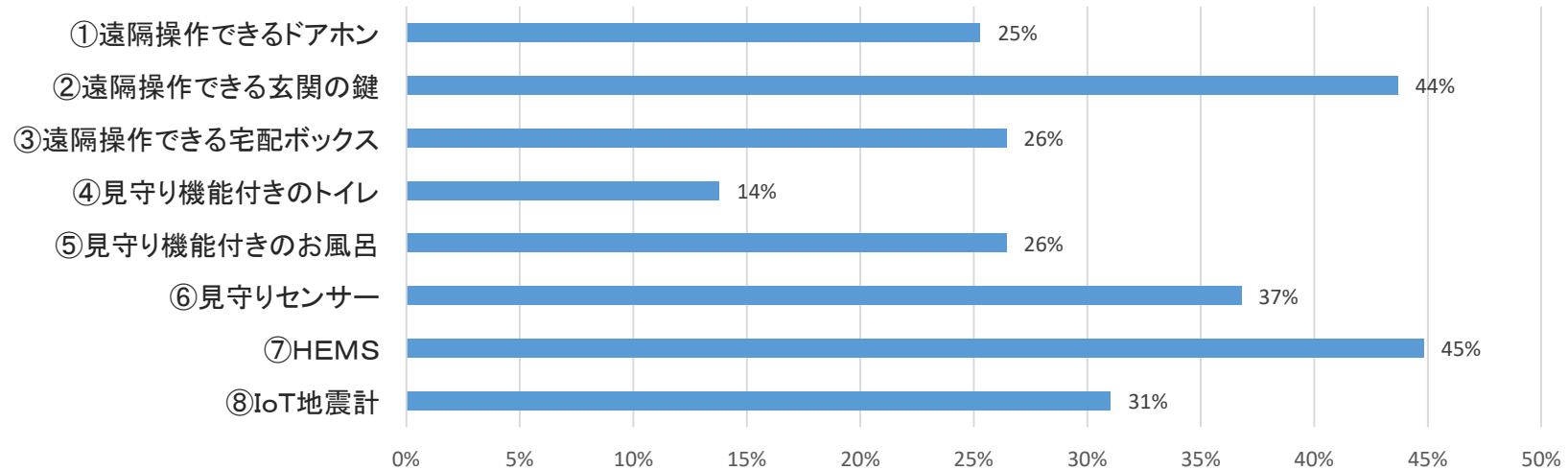


6. 住宅の点検やリフォームについて「気軽に相談できる建築事業者」(持家に住む者のみ)

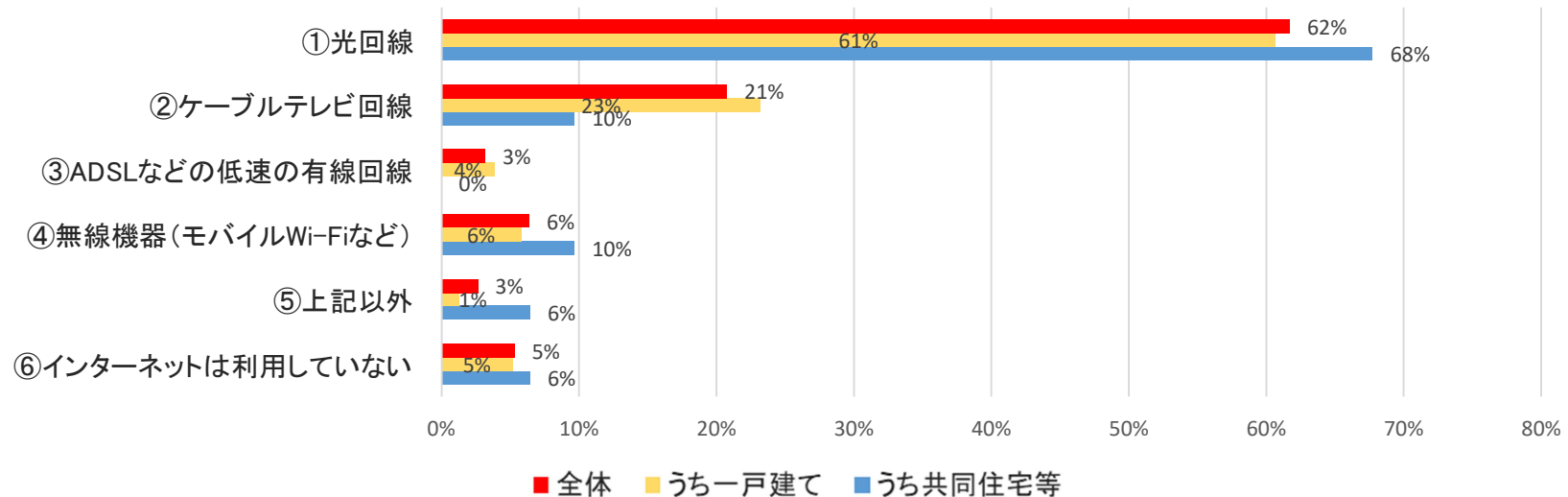


(1)「新たな日常における住まい」に関する意識調査

7. AIやIoT等のデジタル技術を用いた「住宅のスマート化」について「興味のある内容」



8. 住んでいる住宅の「インターネット回線の状況」



(1)「新たな日常における住まい」に関する意識調査

9. 自由意見(主なもの)

○新型コロナウイルスによる影響について

- ・在宅時間が増えたので、庭の緑化や室内の観葉植物が増えた。
- ・習い事のオンライン受講が増えたため、オンラインレッスンを受講するための環境にお金をかけた。
- ・子どもの大学卒業後にリフォームを予定しているが、コロナ対応で、家で仕事をする用の広い部屋が必要になった。
- ・コロナ禍になって長く家にいると、地震のことや、防犯性を強く意識するようになった。
- ・デジタル化、スマート化、リモート化等、生活の効率化に取り組みたい。
- ・家族が陽性や濃厚接触者となって自宅待機になった場合に、ほかの家族と分けるのが難しい。
- ・一人の在宅でエアコンや電気を使うことをもたないと感じる。
- ・分譲マンションに居住しているが、新型コロナの影響で大規模修繕が延び延びとなっている。

○持続可能な社会の実現に向けて

- ・近く、リフォームして親の家に住むつもりだが、コロナにはこだわらず、長く住めるようにリフォームして大事に使いたい。
- ・自身も含め、取組が進んでいるとは思えないので、インセンティブが働く複合的な変化理由を作らないと難しいと思う。
- ・民間団体とも連携して、省エネルギー施策を推進してほしい。
- ・緑のカーテンなどの緑化や、家庭用の高効率・自然エネルギー発電設備の導入等を支援してほしい。
- ・徳島すぎ主体の住宅建設に支援を行って、徳島の山を守ってほしい。
- ・古民家などの地域資源を伝統工法で改築・修繕して、活用することを支援してほしい。

○リフォーム等について

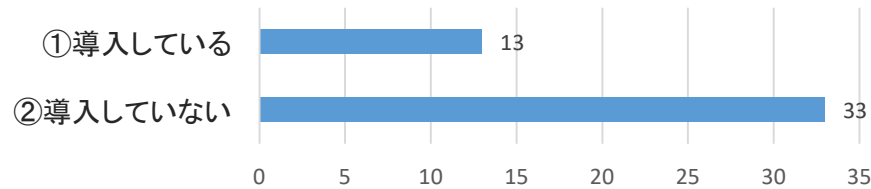
- ・自分にできる範囲で、費用をかけずに外壁塗装や内装工事を少し行っている。
- ・建築の際に気をつけて設計したつもりだが、地震等の自然災害を防ぐことのできる住宅設備が気になっている。
- ・年月の経過だけでも家は劣化していくので、現金の準備は必要だと思う。
- ・リフォームしたいが、金銭的な理由で思うようにできていないので、補助制度が(あるなら情報が)ほしい。
- ・リフォームには相当のお金がかかるので、理想と現実の落としどころをしっかりと見極めて取り組むことが重要。
- ・リフォームするときに、相談しやすく説明のわかりやすい親切な業者が、近くにたくさんいると助かる。
- ・リフォーム等に関心はあるが、今後も現在の住居で自分や家族が住み続けるか明確でなく、躊躇している。

○その他

- ・住宅を取得する方に対し、ハザードマップ等による災害危険性を周知するよう、不動産業者に勧めてほしい。
- ・周囲の住宅が密になっていないので、ある意味不便を感じていない。

(2)「建築BIM」の導入状況について

1. 導入の有無



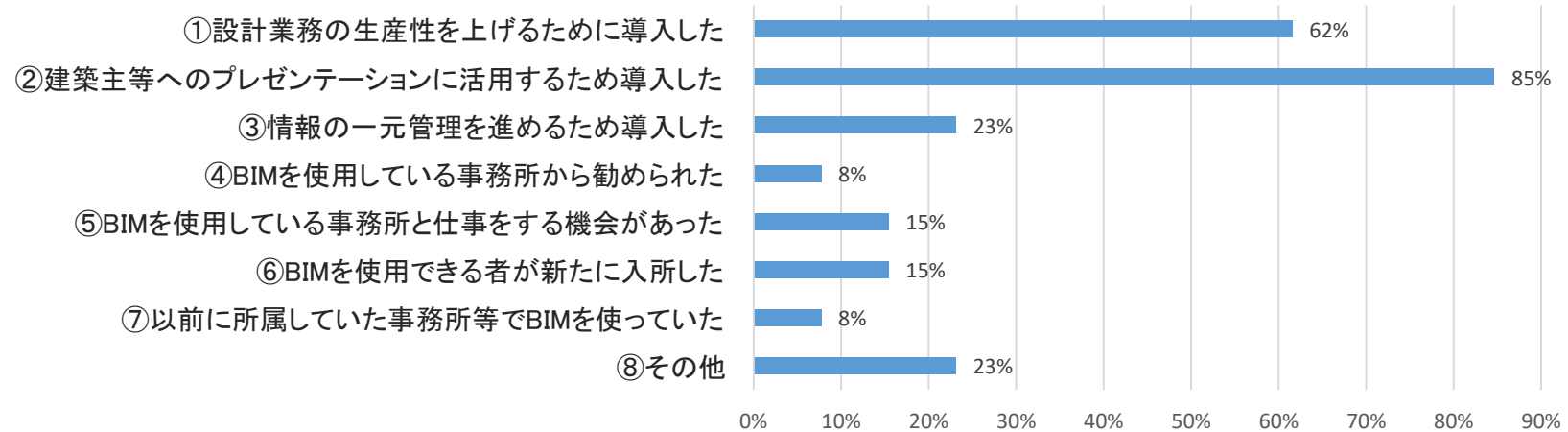
【調査の概要】

調査方法：(一社)徳島県建築士事務所協会
会員へのアンケート調査

回答数：46事務所

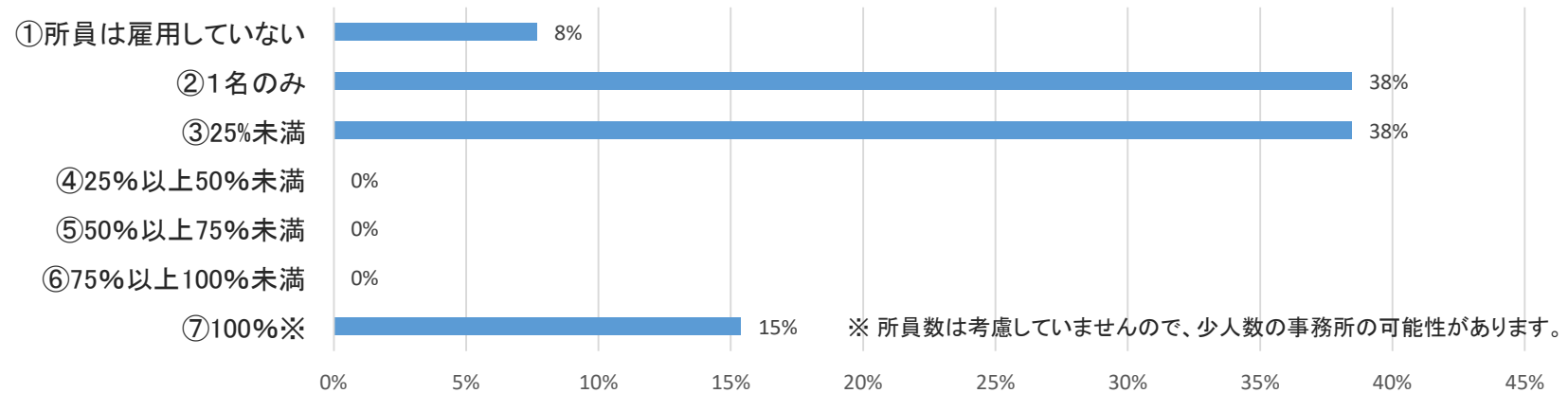
調査期間：令和3年6月23日(水)～7月13日(火)

2. 【導入している事務所】導入のきっかけ

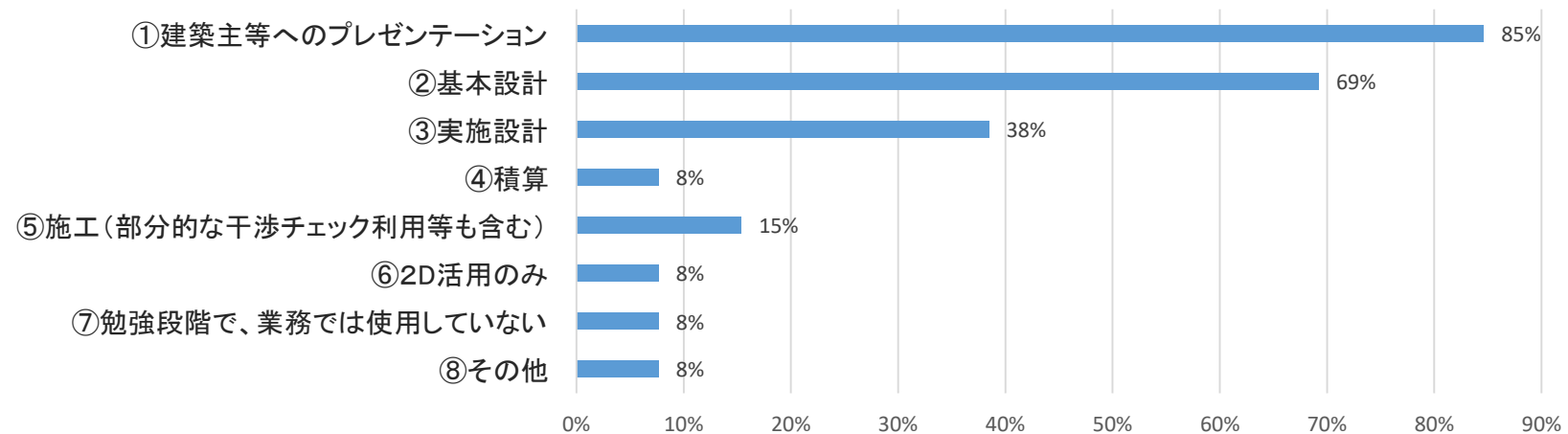


(2)「建築BIM」の導入状況について

3.【導入している事務所】事務所内でBIMを使える所員の割合

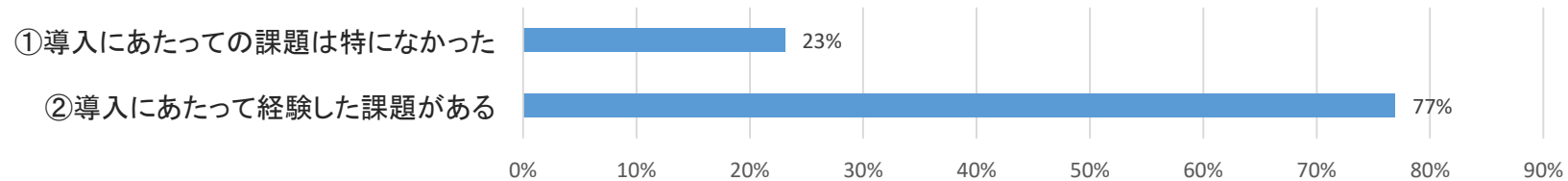


4.【導入している事務所】BIMを使用している業務内容



(2)「建築BIM」の導入状況について

5.【導入している事務所】導入にあたって経験した課題

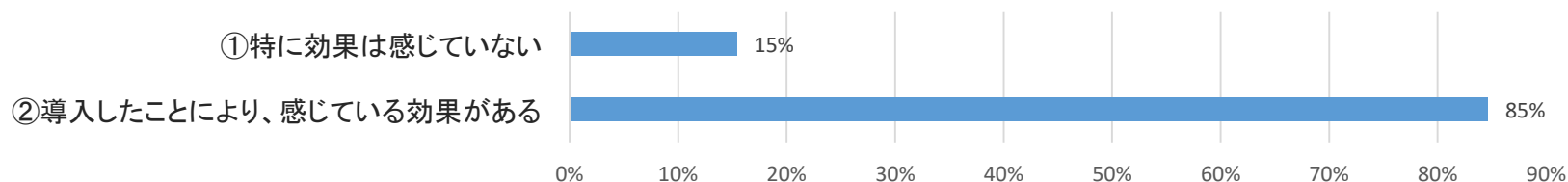


(課題の具体的内容)

- 導入費用、維持管理費用など金額面の負担が大きい。
 - ・複数導入には負担が大きい。 → 事務所内で導入する部門や作業内容を限定している。
 - ・作業によっては高性能のパソコンも必要
- 技術的なハードルが高かった。
 - ・「図面を描く」から「コンピュータ上に3次元モデルを作る」といった意識転換が難しい。
(2次元CADとの感覚の違いに苦しみ一度挫折 → アップデートで使いやすくなり再挑戦)
 - ・2次元CADで作図していた図面を3次元のBIMで表現するのは手間がかかり効率が悪いと感じる。
(パースやモデル作成には活用できているが、図面については今後の課題)
 - ・ファミリー作成に労力がかかる。
 - ・習熟の方法
- 新しいツールを利用することへの抵抗感がある。
- 日々の業務を並行しながら、2次元CADからBIMへ移行する時間の確保が難しい。
- 将来の全面導入を視野に入れているが、構造及び設備事務所の動向を見ながら進めたい。
 - ・BIMソフト同士の互換性もあり、協力事務所との情報交換が必要

(2)「建築BIM」の導入状況について

6.【導入している事務所】導入したことにより感じている効果

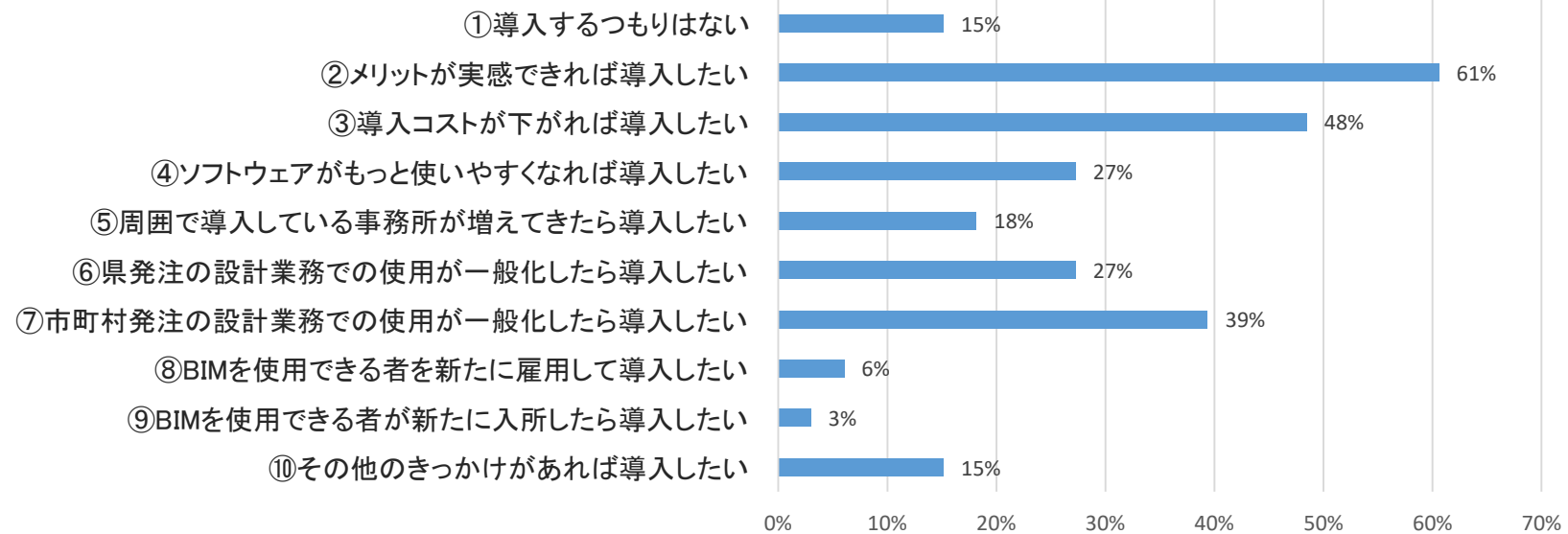


(効果の具体的内容)

- 建築主等の理解を深める効果は高い。
 - ・内部、外部のパースを容易に作成できるので、建築主がイメージしやすく、打合せがスムーズになった。
 - ・基本設計時の具体的な提案が、分かりやすく精度高く表現できる。
 - ・図面の表現方法が多様になる。
 - ・デザインや施工ステップの確認にも活用している。
 - ・図面上ではわかりにくい収まりを、モデルを作成することで理解を深めることができる。
- 設計業務の生産性向上が図られた。
 - ・作図時間が短縮できるので、設計時間に集中できる。
 - ・設計の食い違いが少なくなり、一度完成した図面の手直しも素早く行うことができる。
(一方、ゼロから作り上げる過程においては、図面に現れてこない箇所も作り、時間を要することから、設計段階だけでなく、施工・管理まで使い回せる資産にしなければもったいない)
- 設計の精度向上が図られた。
 - ・ある程度の法規チェックも可能なので、業務がスムーズになった。
 - ・設備との干渉(設備BIMとの合成等を試行中)や、設計の食い違いなどを事前に解消することができる。
 - ・建物イメージや構造体との干渉、収まり等がわかりやすくなった。
- 建築BIMに興味のある若者が就活で訪れるようになった。

(2)「建築BIM」の導入状況について

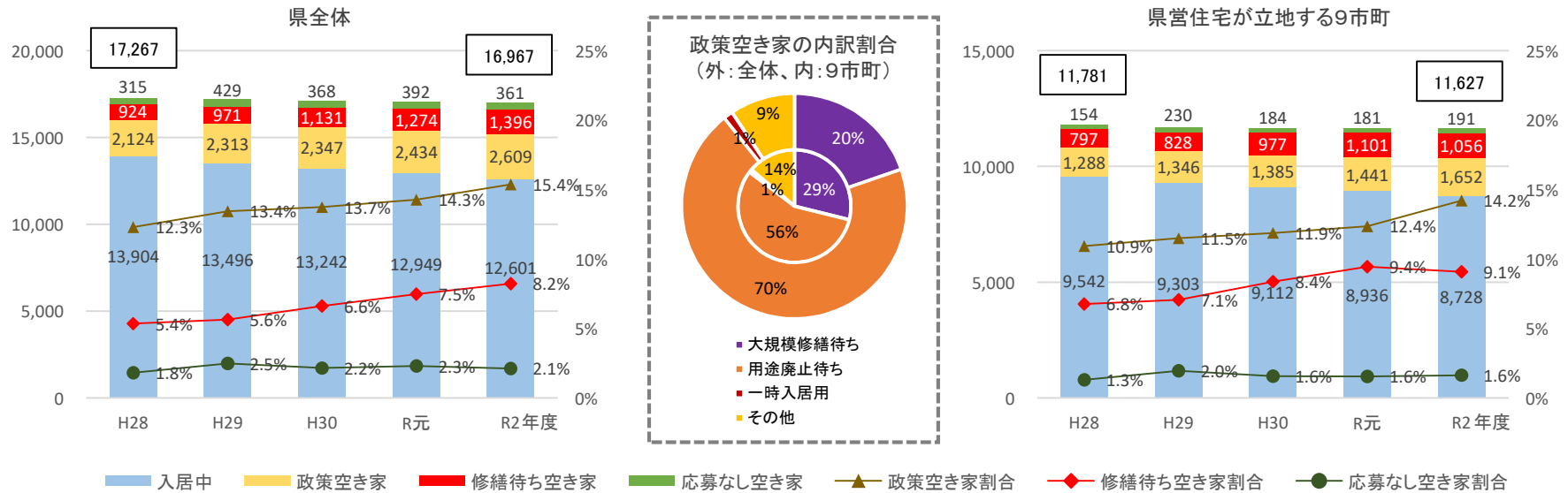
7.【導入していない事務所】今後の導入の意向



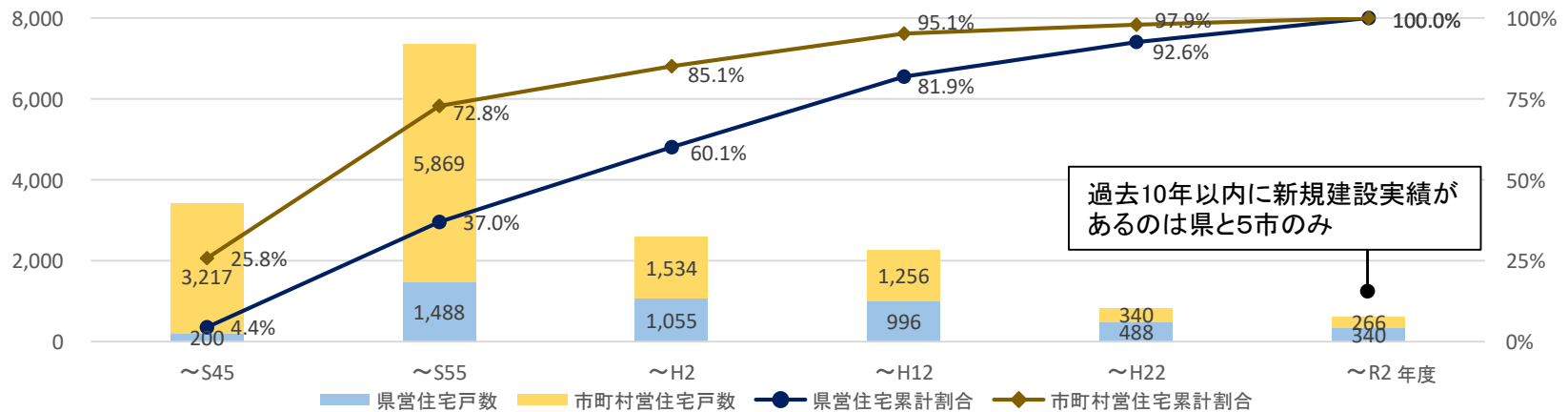
(3) 公営住宅ストックの状況について

1. 公営住宅ストック※の管理戸数・入居戸数・空き家戸数の状況

※県営の改良住宅292戸を含む



2. 公営住宅ストックの建設時期別戸数(累計割合)



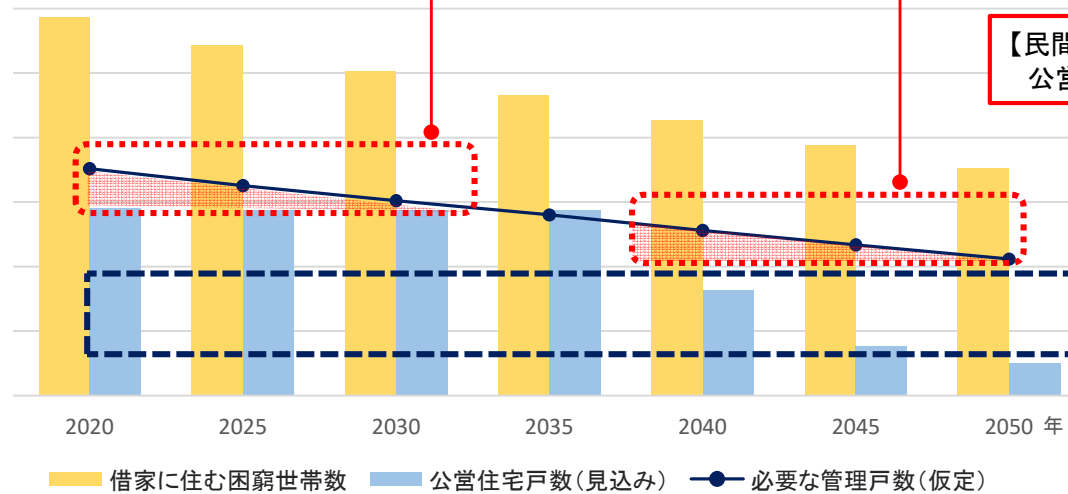
(3) 公営住宅ストックの状況について

(参考) 将来的な公営住宅ストック推移のイメージ (民間住宅ストック活用イメージ)

【民間住宅ストック活用ポイント①】
「応募倍率」や「辞退率」、「応募なし空き家戸数」等から、
公営住宅戸数が不足していると考えられる場合

【民間住宅ストック活用ポイント②】
公営住宅の建替等によりカバーすると、
将来の「必要な管理戸数」に対して過剰になる場合

【民間住宅ストック活用ポイント③】
公営住宅の建替等が財政的理由等から困難な場合



【公営住宅整備の基本方針】

目標時点における
「必要な管理戸数」を目標として
公営住宅の建替等を実施

(4) 市町村における住宅施策の取組状況について

1. 住宅施策を担う人員体制・予算措置

	担当者	管理職	予算額
全市町村平均	7.1人	3.3人	142百万円
市平均(徳島市以外)	7.7人	3.0人	147百万円
町村平均	5.5人	3.3人	57百万円

2. 住宅施策における主な取組

第4次計画の重点テーマ	主な取組(取組市町村数)
重点テーマ1: 「新たな日常」への対応	○空き家等を活用した移住・定住等支援(17) ○一般リフォーム支援(9) ○住まいのスマート化支援(16)
重点テーマ2: 「カーボンニュートラル」への貢献	○省エネ・創エネ支援(2) ○木造住宅支援(4)
重点テーマ3: 「住まいのレジリエンス」の確保	○木造住宅等の耐震化支援(24) ○老朽危険空き家の除却支援(23) ○公営住宅の整備・管理(23) ○高齢者、障がい者世帯向けリフォーム支援(13)

3. 今後(5年以内程度)、重点的に取り組みたい施策等

- 公営住宅の建替えや、長寿命化・安全性確保のための改修等
- 空き家等を活用した移住施策や、防災等の拠点整備により、地域活性化及び持続可能で魅力的なまちづくりを推進
- 自然災害に備え、空き家の除却や、改修支援事業等を通じた安心・安全な住環境を提供
- 時代に合った、個々の働き方や住民のニーズに対応した間取りなど、住環境の向上を目指し、暮らしやすい魅力的な生活環境となるよう配慮し取り組む